

## (1) 全体的な取り組みと効果

■噴火警報、噴火警戒レベルの発表はもとより、地方気象台等を通じて自治体や関係機関に対して火山活動状況の解説や噴火警報等の発表前後の情報共有に努めた。

- ・ 噴火警報の発表や噴火警戒レベルの引き上げ時
- ・ 噴火警報等の発表に至らないような活動状況時



●自治体等では、あらかじめ地域防災計画等に定められた各レベルに対応した防災対応、事前準備が円滑かつ適切に実施された。

(住民等への注意喚起、登山規制、道路規制、連絡・配備体制の事前確認 等)

～ 噴火警報、噴火警戒レベルが発表された自治体関係者からの意見 ～

<浅間山>

- ・ 「(噴火警戒レベル導入時に)防災対応が定められているため、  
噴火警戒レベル2になっても特に混乱することはなかった」
- ・ 「執るべき防災対応が分かりやすくなった」

<雌阿寒岳>

- ・ 「(噴火警戒レベル導入前ではあったが)、噴火警戒レベル2相当(火口から500m以内規制)ということで落ち着いて対応することができた。また、防災対応がしやすくなった」

## (2) 各火山での取り組みと効果

### ① 口永良部島

- 噴火警戒レベル3の噴火警報を発表中、鹿児島地方気象台等と屋久島町は噴火警戒レベル4への引き上げを想定して、住民や観光客等への噴火警報の伝達、噴火警戒レベルを踏まえた具体的な防災対応について確認するための打合会を重ねて行った。
- 屋久島町及び関係機関により噴火警戒レベル4から5への引上げを想定した防災訓練が実施された。(防災行政無線等による噴火警報、避難指示の伝達、海上保安庁巡視船・漁船による島外避難など)

● 屋久島町、関係機関においてより実践的な防災対応を確認することができた。

### ② 桜島

- 臨時火山情報が発表された場合、「桜島爆発災害対策連絡会議」を開催し防災対応を協議するケースがあったが、噴火警報、噴火警戒レベルの運用開始により、自治体等による防災対応を迅速に判断して実施できるようになった。
- 立入禁止区域の拡大の検討に際し、鹿児島市、鹿児島地方気象台が噴火の影響が予想される有村地区の住民に対して個別訪問を行った。

● 住民に噴火警戒レベルと必要な避難行動等についてより理解してもらうことができた。

### ③ 霧島山

- 噴火警報の解除に際し、宮崎、鹿児島両県、関係自治体及び宮崎、鹿児島両地方気象台等が連携し危険区域の調査を行った。

● 広域的な防災対応の重要性について共有することができた。

### (3) 主な課題

- 火山活動が上向きである中で、情報文において「噴火の心配はない」と取られかねない表現を用いたケースがあった。

＜事例＞ 8月21日に発表した霧島山の解説情報において「新燃岳では、一昨日から振幅の小さな地震が増加しており……多い状態が継続しています。……現在のところ火口周辺に影響を及ぼすような噴火の兆候は見られません。」と記述したが、8月22日に噴火が発生した。



●火山活動の状況が理解されるよう、分かりやすい表現にあらためる。

- 噴火警報や噴火警戒レベル等の内容や意義について十分な理解が得られていない。

＜事例1＞ 噴火警戒レベル2が継続中の桜島において、レベル2の範囲内の噴火が繰り返し発生した後、活動の活発化を予想しレベル3の噴火警報を発表したが、その噴火警報が出し遅れであるという報道があった。

＜事例2＞ 火口周辺に影響を及ぼす噴火を想定し、予想される影響範囲を付した火口周辺警報（火口周辺規制）を発表した際に、「噴火の規模が良く分からない」という意見があった。



●噴火警報、噴火警戒レベルや自治体が講ずる防災対応等について、地元自治体や関係機関等と連携しながら、今後も広く住民等に説明し理解を求めていく。

■夜間、悪天時には噴火、火砕流等を詳細に把握することが困難である。

<事例> 2月3日00時39分 桜島昭和火口の噴火  
8月22日16時34分 霧島山新燃岳の噴火

■火砕流等の現象規模の迅速な把握が困難である。

<事例> 2月3日10時18分、15時54分 桜島昭和火口の噴火



●リモートセンシング技術の活用・開発  
関係機関との連携による監視体制の強化

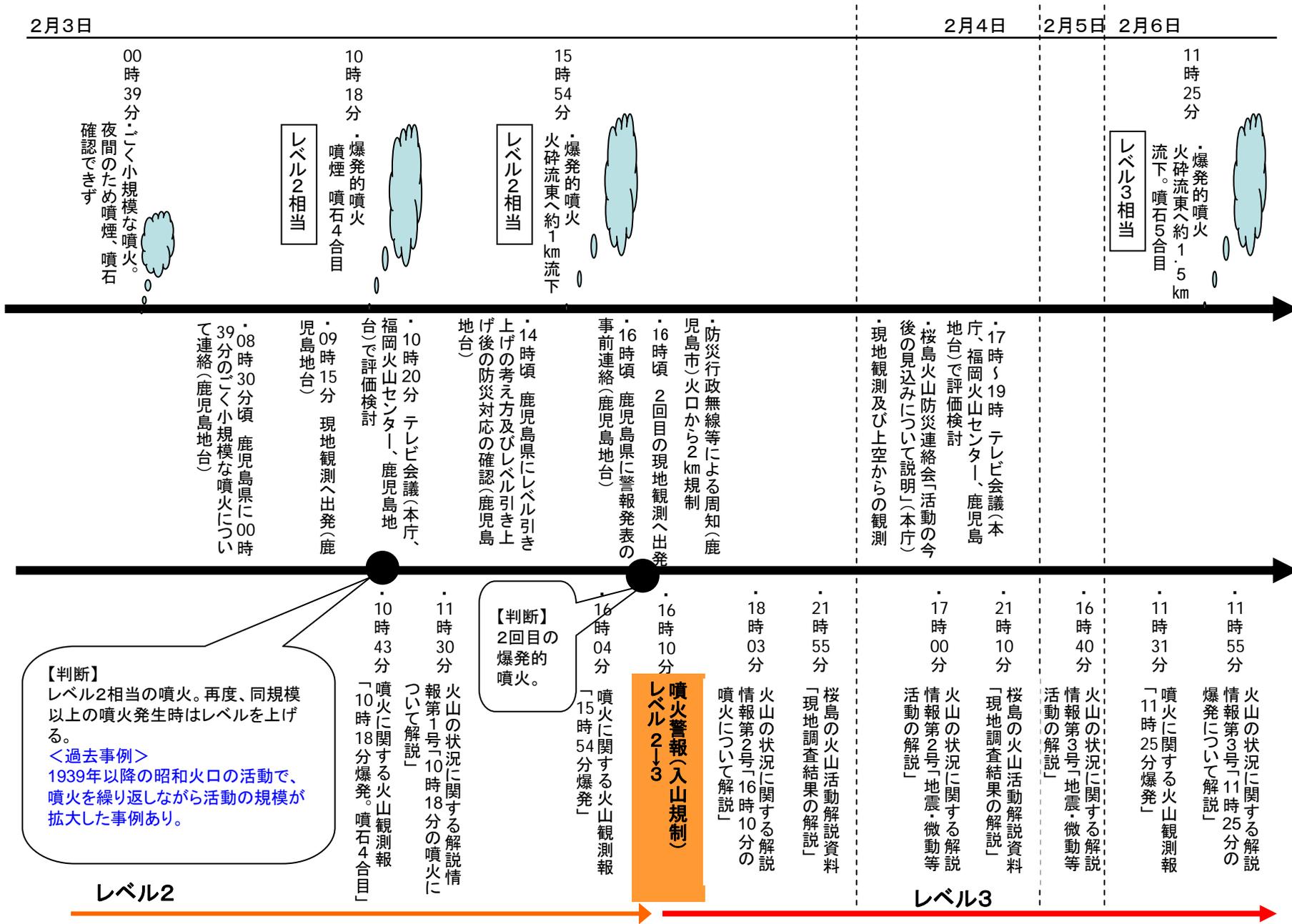
■小規模な噴火の発生予測が困難である。

<事例> 8月22日16時34分 霧島山新燃岳の噴火



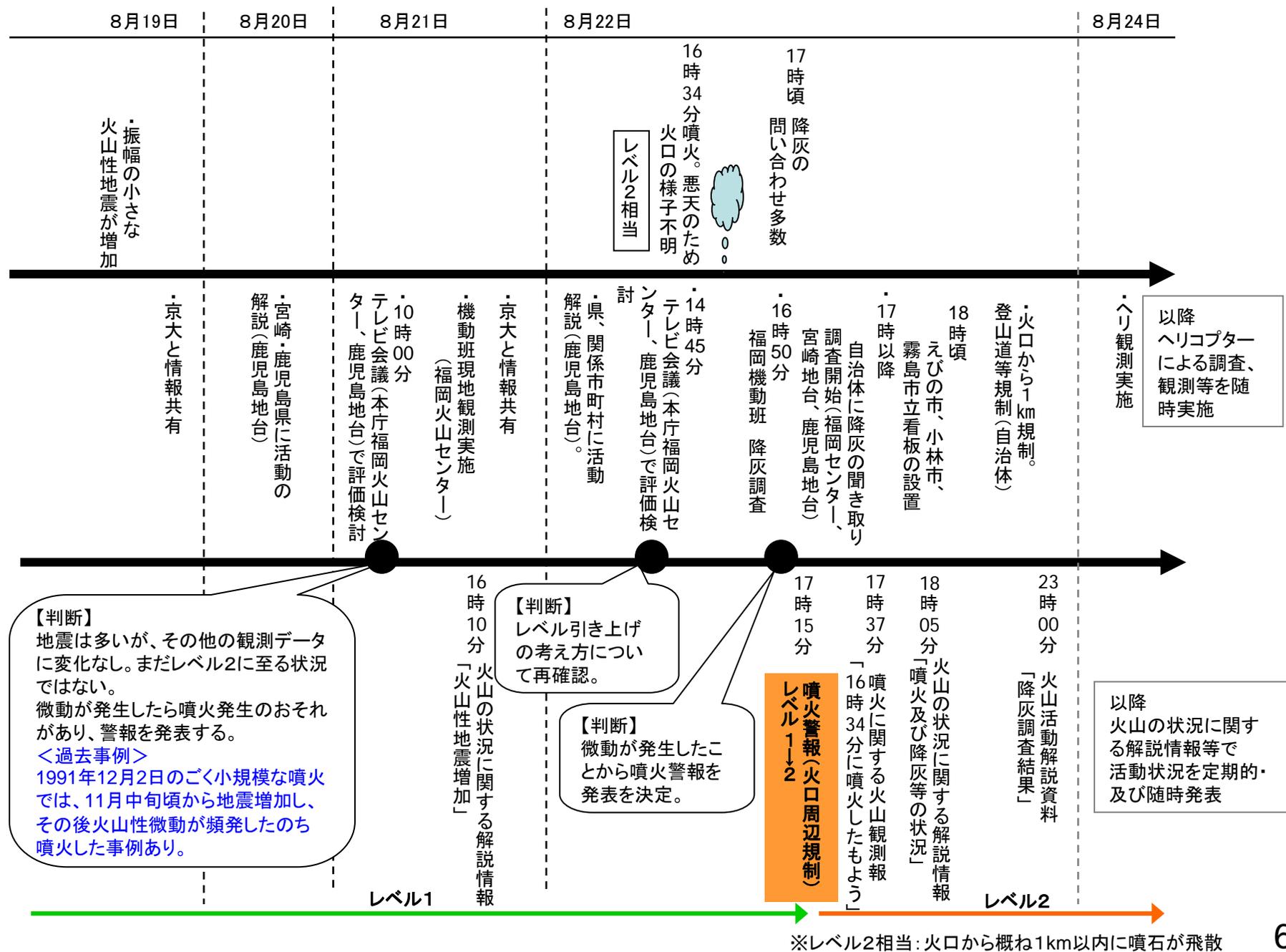
●火山噴火予測技術に関する調査研究の推進

# (1) 桜島昭和火口の噴火時の対応 (2008年2月)

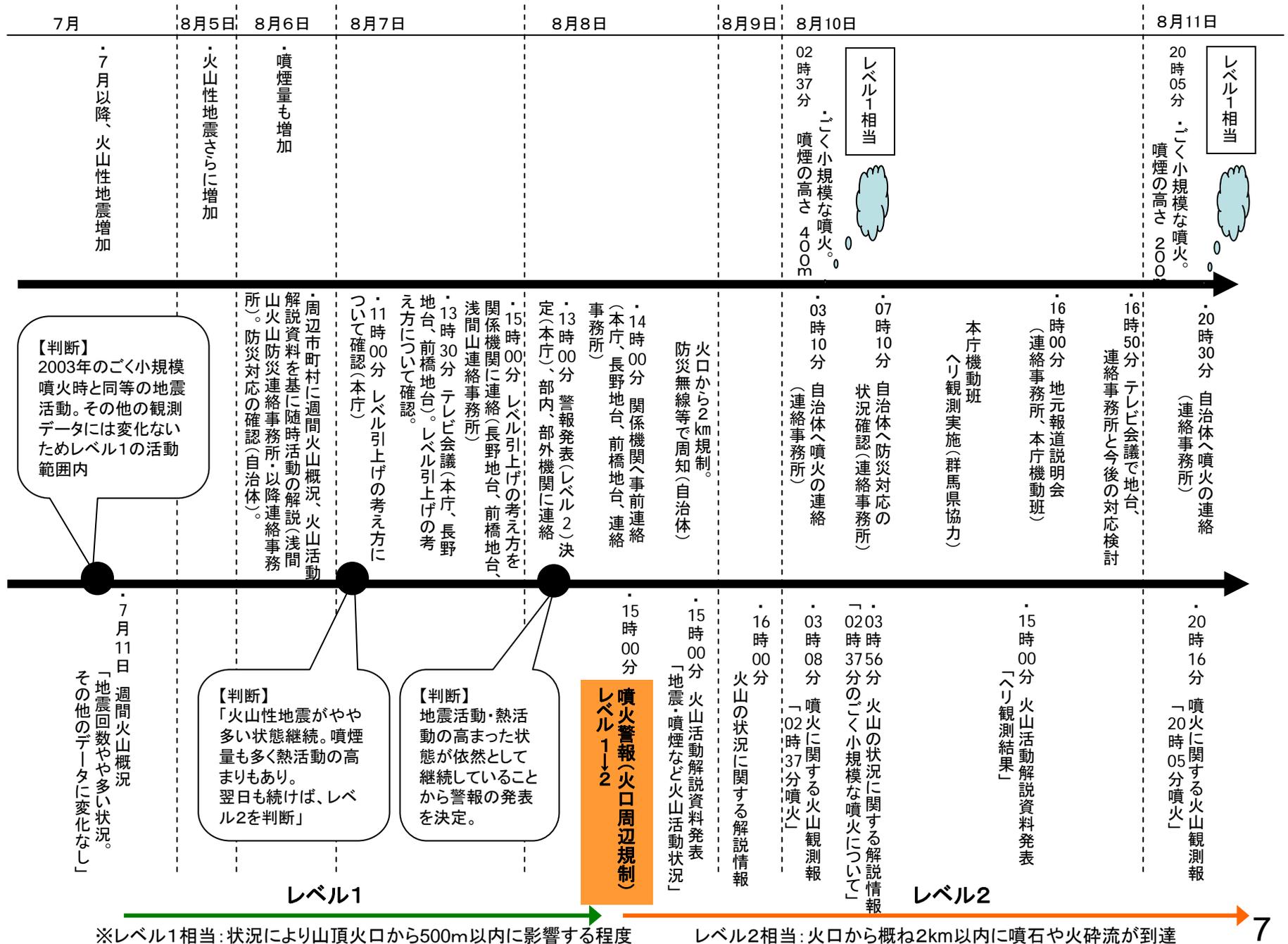


※レベル2相当: 火口から概ね1km以内に噴石が飛散    レベル3相当: 火口から概ね2km以内に噴石が飛散または火砕流が到達

## (2) 霧島山(新燃岳)の噴火時の対応 (2008年8月)



# (3) 浅間山の噴火活動の対応 (2008年8月)



【判断】  
2003年のごく小規模噴火時と同等の地震活動。その他の観測データには変化ないためレベル1の活動範囲内

【判断】  
「火山性地震がやや多い状態継続。噴煙量も多く熱活動の高まりもあり。翌日も続けば、レベル2を判断」

【判断】  
地震活動・熱活動の高まった状態が依然として継続していることから警報の発表を決定。

7月11日 週間火山概況  
「地震回数やや多い状況。その他のデータに変化なし」

※レベル1相当: 状況により山頂火口から500m以内に影響する程度

レベル2相当: 火口から概ね2km以内に噴石や火砕流が到達